

令和3年産 もっと安心農産物「もっと安心米(コシヒカリ)」栽培暦 ～みんなで守ろう生産基準！～

JA成田市・もっと安心米生産班

月 旬	9			10			11			12			1			2			3			4			5			6			7			8			9																													
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																														
生育 ステージ	播種期																					田植え			分けつ期			最高分けつ期			幼穂形成期			出穂期			登熟期			成熟期																										
管理 作業	● 稲わらの鋤き込み			● 堆肥の施用			● 深耕			● 耕うん			● 塩水選・種子消毒			● 播種			● 畦畔作り			● 基肥施用			● 代かき			● 箱施肥剤散布			● 田植え(基肥施用)			● 除草剤散布			● 中耕・草取り			● 畦畔管理			● 穂肥施用			● 畦畔管理			● 斑点米カメムシ類			● いもち病防除			● ヒエ抜き			● 畦畔管理			● 収穫・乾燥・調製			● 稲わらの鋤き込み		
水 管理																						【深水】			【浅水】			【中干し】			【間断かんがい】			【湛水管理】			【間断かんがい】			【落水】																										
栽培 の ポ イ ン ト	<p>1. 土づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機物の補給として、稲わらの鋤き込みを行う。 堆肥等の施用を積極的に行い、地力維持に努める。 <p>2. 作土層の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 深さ15cmを目標とした耕耘を行い、根域を拡大する。 <p>3. 基肥</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機アグレット673号を40kg施用する。 (砂質土は2～3割増肥、粘質土は1～2割減肥する) 施用時期は、肥料の分解を考慮し田植前10日を目安に施用する。 初期生育の確保が不十分な場合には、根付化成(13-13-13)を5kg以内で施用する。 <p>4. 穂肥</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機追肥530特号20kgを出穂前20日(幼穂長1cm)を目安に施用する。 施用遅れは、粗タンパク質含有率を上げ、食味に影響をおよぼすので注意する。 <p>5. 育苗</p> <ul style="list-style-type: none"> 種子消毒は、微生物農薬エコホープDJの200倍24時間浸漬で行う。(陰干しは、しない!) 播種量は、催芽粃で120～150g/箱の薄播きとする。 ハウス内の温度管理とかん水量に注意し、健苗育成に努める。特に30℃以上の高温に注意する。 <p>6. 田植え</p> <ul style="list-style-type: none"> 育苗日数は20～25日とし、2～2.5葉期で移植する。 1株当たり3～5本、栽植密度は㎡当たり18.5株とし密植に注意する。 <p>7. 雑草防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋冬期の耕うんを行い、雑草の発生量の抑制に努める。 生育中の畦畔管理は、草刈り機又は、バスタ液剤やラウンドアップマックスロードを散布する。 (バスタ2回迄、ラウンドアップ3回迄) 除草剤については、一発処理剤のウィナーフロアブルを移植直後～ノビエ2.5葉但し、移植後30日までに散布する。 雑草の発生が多い場合は、手取り又は中耕を行う。 藻類の発生が多い場合は、モゲトン粒剤を散布する。 <p>8. 病害虫防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 畦畔及び農道などの雑草は、病害虫の発生に影響するので、草刈りを行い水田周辺の環境保全に努める。 初期害虫防除については、抵抗性イネドロオイムシを考慮し、パダン粒剤4を箱当たり50g散布する。 本田後期の病害虫である斑点米カメムシ類・いもち病等については、発生量に注意し適期に散布する。 <p>〔殺菌剤：アミスターエイト 殺虫剤：スタークル液剤10、粒剤、粉剤DL(選択)〕</p> <p>9. 水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 田植え初期は深水、活着後は浅水で管理し分けつを促進する。 有効茎数確保後(1株当たり18本前後)、中干しに入り無効茎数と下位節間の伸長を抑制する。 出穂前後は湛水管理、落水は出穂後25日以降とする。 <p>10. 収穫・乾燥・調製</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫は、帯緑色もみ歩合15%を目安に適期に行う。 乾燥は、水分14.5～15%とし、過乾燥に注意する。 調製は、グレーダーの網目は1.8mmで選別する。 																																																																	

※ 使用量は、10a当たり。

※ ●有機アグレット673号(6-7-3) 有機態チツソ6%、無機態チツソ0% ●根付細粒化成(13-13-13) 有機態チツソ0%、無機態チツソ13% ●有機追肥530特号 有機態チツソ3.4%、無機態チツソ11.6% ●美穂有機(8-2-10) 有機態チツソ7%、無機態チツソ1% ●黄金ユークキ28号(12-4-12) 有機態チツソ1%、無機態チツソ11%